

様式第2号（第4条関係）

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 ■事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	臨時保育室設置事業									
1-2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	児童福祉課	係	子育て支援係	評価票作成者	少子対策担当係長 竹本啓子		
1-3 総合計画における施策の体系	①節	保健福祉				③基本施策	少子時代の子育て支援		コード	2-2-1
		「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」				④単位施策(中)	親が学び育つための事業の推進		コード	2-2-1-4
	②項	社会福祉				⑤単位施策(小)	子育て中の親の社会参加の促進		コード	2-2-1-4-3
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	子育て中の親が各種講演会、講座等の社会活動に参加しやすい環境づくりを進める中で設置する事業			意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）	市が主催する事業で臨時保育室を設けて、子育て中の親が社会活動に参加しやすい環境を作ることによって男女共同参画社会を実現する。				
1-5 事務事業の内容	子どもを安心して生み育てることができる環境づくりとして、各種講演会等を開催して子育て中の親が積極的に社会参加できるように託児サービスの充実を図り、男女共同参画社会の実現を図る。									

2 ■ 事務事業実施の状況

2－1 事務事業の実施における基本認識	平成18年度	親が積極的に社会参加されることにより、当日託児をキャンセルすることがあるため、開催前日に依頼者に確認を入れている。	事業場所が、各幼稚園及び小中学区毎に講座を設定しているため、地域に根ざした環境が整い、参加しやすい。	妊娠・出産と子どもの成長に応じて、子育て中の親に対して総合的に子育て支援策としての好評を与えている。							
	平成19年度	〃	事業場所が、各幼稚園及び小中学区毎に講座を設定しているため、地域に根ざした環境が整い、利用者が多い。	〃							
	平成20年度	前年度はボランティアに委託したが、本年度は委託を解消されたので、新たにサポーター登録をお願いした。	各課の事業内容に応じて、子育て中の保護者が計画的に参加し利用している。	〃							
	平成21年度	引き続きサポーター登録をお願いした。	〃	〃							
	平成22年度	託児を有料化したことで、民間事業者等の依頼にも応じ子育て支援の拡大を図ることができた。									
	平成23年度										
	平成24年度										
	平成25年度										
	平成26年度										
	平成27年度										
2－2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明						
	臨時保育室設置事業数（事業）		20（事業）	30（事業）	平成17年度から臨時保育室設置（託児サービス）事業が始まり、他部署による託児サービスが必要な事業に対して、子育て中の保護者が安心して社会参加できるように継続していく目標数値である。						
2－3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a（件）	142（件）	124（件）	91（件）	112(件)	102(件)					
	直接事業費 b（千円）	1,323	1,250	972	1,073	10					
	人件費 c（千円）	784	784	778	285	369					
	合計コスト d（b＋c）（千円）	2,107	2,034	1,750	1,358	379					
	単位コスト d／a（千円）	1 件当たり14	1 件当たり16	1 件当たり15	1 件当たり12	1 件当たり3.7	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明	→	活動実績は派遣件数、直接事業費 賃金1,010円*1.5時*243日=368,145円(臨時職員) 子どもの預かり418人、活動サポーター数289人 活動時間631時間 諸経費(電話料コピー代等)10,000円
---------------------	---	---

